

Any アート・ギャラリー 設置の提案

私は 2019 年から 3 度の「かしわら芸術祭」に参加し、実行委員会にもアドバイザーとして関わってきました。その経験から私が主に「かしわら芸術祭」の運営・実行に関して思うことと、Any アート：実行委員会の今後のアートの活動に提案出来る企画を考えました。

まず「かしわら芸術祭」の実行・運営で最初に思うことは

「かしわら芸術祭」の開催は実行委員会の企画・運営力では負担が大きすぎる。

のではないかとことです。

アートに関する理解や展覧会を実施するノウハウがまだまだ足りないと感じます。

もちろん、運営に関わる事務的なことや接客などは丁寧にされていると思いますが、アーティストやアートとどう関わっていくかの経験が少ないと思いますし、また展示に関わるノウハウもまだまだ不十分でさらにスキルをアップする必要があります。

アートは分りにくいとも言われますが、アートとの関わりを増やしていくことで、少しずつ直感的に分かるようになるものです。

アートをベースに柏原を盛り上げていきたいという Any アートの主旨からすると、2 年に一度の「かしわら芸術祭」(だけ)でなく、日常的にアートに触れる場と機会を増やしてく方向に活動をシフトチェンジするのが良いかと思います。

日常的にアートやアーティストに接する機会を柏原で造っていく必要性。

そのためには、活動の拠点となる『場』が必要です。その『場』を利用して Any アートでイベントを企画運営していくなかで、展覧会運営のノウハウを知り、アート作品やアーティストに対する理解を深めていけるのではないのでしょうか。

そのための『場』として

Any アートのギャラリーを設置を提案します。

Any アートが運営するギャラリーです。「かしわら芸術祭」では会場が沢山あり運営面で負担が大きいです。いち会場のギャラリーであれば力が分散しなくて済みます。

メンバーでイベントを企画し「どのような展覧会をしたいか」「どのような人を呼ぶのか」

を考え、アーティストを選考し、展覧会の打ち合わせをし、DM を制作し、搬入・搬出の手助けをします。もちろん多くの人に来てもらえる広報・招待などの活動も重要です。そして会期中にはアーティストと Any アートの方々、また地域の方々との交流の場を作っ
ていき、そのなかで地域住民のアートの感性を養うことができるのではないかと思います。展覧会を作りだす過程を踏むことでアーティストの考えや作品のコンセプトがわかってきま
すし、展覧会を作るノウハウを知り蓄積できていきます。また活動の実感も生まれます。

貸（レンタル）の空間では駄目です。基本企画で行うのが理想です。運営の責任が全く
違ってきますから。

イベントや展覧会の回を重ねることで、どんどん良いものになっていくと思います。

美術館でいう学芸員を Any アート内につくる

要は Any アートで展覧会（イベント）企画部を設けるということです。

ギャラリーでの企画に関しては、これまで「かしわら芸術祭」に参加している内容から
選んでいくことが初めとしてはやり易いです。アート／キルト／陶芸／音楽／書／
手づくり雑貨／ダンス／デザイン／学生作品など

〈 運営にあたりのメモ 〉

- ★ Any アートの方がやりたい、やれる魅力を感じることを探して下さい。
- ★ イベントや展覧会開催にあたっては全国から参加募集することも有意義です。
- ★ 地域の方に出来るだけ足を運んでもらう、あるいは何か関わりがもてるワークショップ
やトークショー、パーティなどを設けに参加してもらおう。
- ★ ギャラリーのサポーターをつくる（ファンをつくる・作品を買ってもらう）

- ★ 「かしわら芸術祭」を一旦休止してギャラリー運営を主な活動とすることもありなの
では。

以上 が提案の趣旨となります。

この提案は Any アートの最近の会議や活動内容にそぐわない面もあるやもしれませんが、
が、少し外から見た私の芸術祭での関わりから見えてきた内容の提案でした。

Anyアートギャラリーの関係図

